未来に向けた取り組み
事業部紹介シリーズ 14

写真や図表で見る
全農のいま

酪農部

主な事業内容
- 生乳の販売
- 業務用乳製品・牛乳（殺菌乳）の販売
- 生産基盤の支援・理解醸成の取り組み

生乳需給の安定と持続可能な酪農を目指して

酪農部は、新鮮で美味しい牛乳や乳製品を安定して食卓にお届けするため、生乳の産地と乳業メーカーとの間で生じる需給バランスを調整しています。今回は全農の需給調整機能、農系乳業との連携や消費拡大・消費者理解醸成の取り組みについてご紹介します。

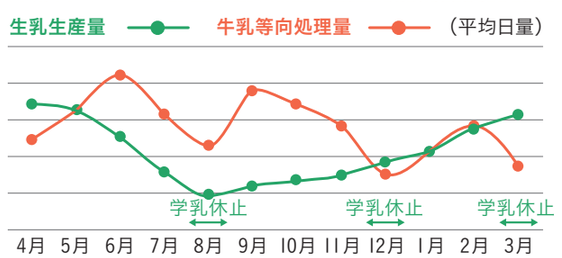
FILE 1

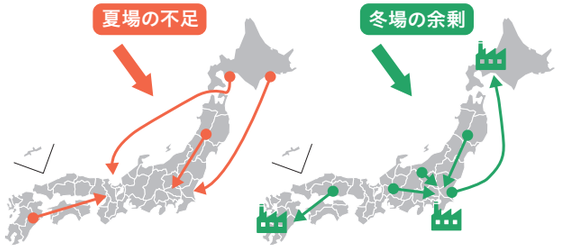
生乳等の需給調整を通じた生乳・乳製品の販売

都府県で季節的に生じる生乳の生産量と消費量の需給ギャップに対し、全国域で過不足調整を行っています。夏場の需要期は北海道・東北・九州等の生乳主産地から消費地圏へ生乳を移送し牛乳向け（飲用向け）に必要な量を充足しています。対して冬場は、保存の効くバターや脱脂粉乳などの乳製品に加工し、必要に応じて買い取り、販売をしています。

併せて北海道産乳製品のユーザーへの安定販売を通じ、国産乳製品の需要の拡大に取り組んでいます。また、清涼飲料メーカーや食品メーカーにコーヒー・紅茶飲料・冷凍食品などの原料となる牛乳の安定販売に取り組み、飲用需要の維持拡大に努めています。

■都道府県の生乳需要構造
季節や天候によって生じる需要と供給のギャップに対し、日々、産地間・乳業者間で生乳の需給調整が必要





生乳主産地から消費地へ生乳を移送し牛乳向けに

生産地から加工工場へ搬入し長期保存可能な乳製品を製造

FILE 2

グループ会社と連携した牛乳等の需要拡大に向けた取り組み

協同乳業㈱や酪王協同乳業㈱、日本酪農協同㈱のグループ会社と連携して牛乳・乳製品などの安定的な販売に取り組んでいます。また、需要拡大・理解醸成イベントも連携して取り組んでいます。例えば、農林水産省と（一社）Jミルクが立ち上げた「牛乳でスマイルプロジェクト」に参画している「リソルホテルズ（リソル㈱）」では「welcome milk stand」を開催し牛乳の消費が減少傾向となる夏休み期間の牛乳消費拡大を目的にウェルカムドリンクとして、グループ会社3社の「農協牛乳」、「酪王牛乳」、「毎日牛乳」を提供しました。今後も、消費者の皆さまに酪農と牛乳・乳製品の魅力や価値を伝えられるよう取り組んでいきます。

「リソルホテルズ」で開催された「welcome milk stand」

牛乳でスマイルプロジェクト

「牛乳でスマイルプロジェクト」

酪農家が生乳の需給変動を心配することなく安心して生乳を生産できるように冬場を中心に、乳製品工場と協力し、バターや脱脂粉乳に加工・販売しています。また、通年で、海外から輸入しづらい生クリームや無脂肪牛乳のような液状乳製品を販売推進することで、国産乳製品の需要の維持、拡大に努めています。加えて九州酪農家が必要とする搾乳牛の需要に応えるため、主にホクレンの家畜市場を通じて、優良な乳用牛を九州に供給しています。

JA全農酪農部
九州事業課
丹波 直隆さん
2022年入会　余乳処理、乳製品の販売、乳用牛の導入の業務を担う。